

農作業を安全に行いましょう

農業用機械の利用は、農作業の効率化のためとても効果的ですが、一方で取扱いを間違えると重大な事故につながる危険性があります。

農作業がピークとなる時期ですが、近年、トラクターや高所作業車等の使用中の事故が増えています。

「農作業は、焦らず、急がず、慎重に」を合い言葉に農作業事故にはくれぐれも注意していただくようお願いいたします。

農薬は正しく使いましょう

6月から9月は「農薬危害防止運動」の実施期間です。農薬を使用するときは次の事項に注意してください。

- 1 毒物又は劇物に該当する農薬だけでなく、すべての農薬について、安全な場所に施錠して保管するなど、保管管理には十分注意すること。
- 2 農薬の調整又は散布を行うときは、ゴム手袋、マスク等の防護装備を着用し、取扱いは慎重に行うこと。
- 3 農薬を散布するときは、事前に関係者に連絡し、関係のない者が近づかないように気をつけるとともに、隣接住宅等に飛散しないように風向き等に十分注意すること。
- 4 水田において農薬を使用するときは、止水に関する注意事項を厳守し、河川の汚染防止等、環境の保全に努めること。
- 5 使用残りの調整液や散布器具を洗浄した水は、排水路等に直接排水することを避け、散布むらの調整への利用など適切に処理すること。
- 6 農薬の空容器、空袋等の処理は、廃棄物処理業者に処理を委託する等、適切に行うこと。

専門学校山梨県立農業大学校 令和2年度の入学生を募集します

山梨県立農業大学校は、21世紀の農業・農村社会を担うにふさわしい実践力と経営感覚を備えた農業経営者の育成を目指しています。

学校説明会(本校にて) 養成科・専攻科共通

第1回	6月 15日(土)	10時～12時 済	学校説明・見学会
第2回	7月 27日(土)	10時～15時	学校説明・体験学習
第3回	8月 17日(土)	10時～15時	学校説明・体験学習
第4回	9月 7日(土)	10時～12時	進学相談会
第5回	10月 26日(土)	10時30分～12時	進学相談会(収穫祭)

入学試験	科	願書受付期間	試験期日	合格発表日
推薦	養成科 専攻科	令和元年9月12日(木) ～9月25日(水)	10月9日(水)	10月23日(水)
一般	前期 養成科 専攻科	令和元年11月 7日(木) ～11月20日(水)	12月4日(水)	12月18日(水)
	後期 養成科 専攻科	令和2年1月16日(木) ～1月29日(水)	2月13日(木)	2月21日(金)



スモモの受粉実習



花き苗の鉢上げ実習



トラクター運転実習

問い合わせ

専門学校山梨県立農業大学校 〒408-0021 北杜市長坂町長坂上条3251
TEL:0551-32-2269 FAX:0551-32-2034 <http://www.pref.yamanashi.jp/noudai/>

山梨県普及センターだより

Yamanashi Agricultural Extension Service Information

編集&発行:山梨県農政部農業技術課

〒400-8501 甲府市丸の内一丁目6-1

TEL:055-223-1619 FAX:055-223-1622

<https://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/>

E-mail:nougyo-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

令和元年6月20日発行

No.45



県オリジナル品種「甲斐ベリー3(ブラックキング)」について

農業革新支援スタッフ【果樹】



「甲斐ベリー3」は、果樹試験場がピオーネ×山梨46号(巨峰×巨峰)を交雑した中から選抜し、平成30年に「甲斐ベリー3」として品種登録された黒色系4倍体品種です。

本種の特徴は、玉張りが成木で20～30g(平均22g)と既存の黒系品種よりも良く、着色と食味も優れるため、県内ブドウ産地での普及が期待されています。

今回、山梨県オリジナル品種ブランド化推進会議により、商標名についての一般公募を行い、審査選考の結果、本品種が「ブラックキング」として、商標名が登録されました。

本品種は、県内限定として苗木の供給が進められており、既に7,000本を超える苗木が配布され栽培が始まっています。

一昨年より、果樹試験場で一般公開が行われ、県内ブドウ農家、関係機関の指導者など多くの方々が参加し、本品種の特性や品質等を確認しています。

今後も本品種の普及定着と早期の産地化を目指して、JA営農指導員との研修や栽培管理の手引きの見直しにより、高品質安定生産とブランド化に向けた取り組みを支援していきます。



キュウリ・イチゴの病害虫診断サポートシステムの活用を

農業革新支援スタッフ【野菜】

野菜栽培においては様々な病気や害虫が発生し、その防除には適切な診断が重要です。病害虫の症状は様々で、時には見ることがない症状に出会うこともあり、診断に苦慮することもあります。

そこで、総合農業技術センターでは、キュウリとイチゴのほ場での病害虫診断を手助けするシステムを開発しました。

このシステムは、キュウリとイチゴの病害虫について様々な写真が収録されており、スマートフォンやタブレットにインストールすることにより実際の症状と比較しながら診断することができます。

システムの入手については、地域普及センターや病害虫防除所、各JAにお問い合わせください。無料で利用できますので病害虫の診断に活用してください。



病害虫診断サポートシステムのCD



操作画面

農業経営の法人化と経営改善支援

中北地域普及センター

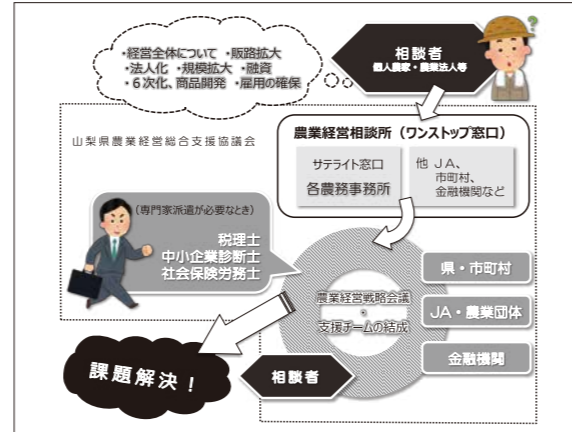


専門家による経営診断とアドバイス

農業経営の法人化や規模拡大、円滑な経営継承等の課題に迅速に対応するため、県が中心となって平成30年度に「山梨県農業経営相談所」を整備し、経営相談・診断の他、税理士などの専門家派遣や巡回指導による課題に応じた支援を行っています。

中北地域普及センターでは「農業経営相談所」と連携し、農業経営の法人化や法人設立後の経営改善支援を行っています。

昨年度は、法人化を検討している農業者に対し、税理士を派遣して現在の経営の問題点や長期的に見た法人経営の利点等について指導したところ、支援した3農家のうち1農家が法人設立の



農業経営相談所概略図

意向を示しました。

また7法人を対象に中小企業診断士による経営分析を行い、それぞれの課題を明らかにするとともに、販売形態や経費、労力の見直しなど、具体的な改善策をアドバイスしました。

当センターではこれからも、法人設立や経営安定・発展のために、農業者の課題解決に向けた支援を行ってまいります。

新特産品「マスタード」生産に向けた栽培確立支援

峡東地域普及センター

峡東地域普及センターでは、新たな特産となり得る農作物の栽培にチャレンジする農業者を対象に「新特産品チャレンジ栽培実証事業」を活用し、当地域における栽培特性の把握と栽培技術の確立に向けた支援を行っています。

これまでに、マスタードによる地域振興を目指す「笛吹市地域おこし協力隊」と連携し、加工用原料となるカラシナの栽培実証を行いました。地域に適した品種の選定や播種時期等の栽培方法の検討により、作付拡大が図られ、地域の特徴を生かしたマスタードが完成しました。このマスタードは地域の直売所等で販売が開始され、消費者からは「本格的な味」「風味が強い」等の好評を得ています。今後はさらなる生産拡大を進めるとともに、桃の開花時期に見頃を迎える菜の花と同様に景観形成の一助になるものと期待されています。



笛吹市内のカラシナを使用したマスタード



実証ほ場の様子(12月時点)

スイートコーン『甘々娘』の省力的な管理技術の実証

峡南地域普及センター



現地実証ほの様子

市川三郷町はスイートコーン『甘々娘』が特産ですが、生産者の高齢化や他品目との労力競合があるため、省力化が望まれています。

そこで、当センターではJA山梨みらい西八代地区野菜部会と協力し、トンネル開閉作業の省力化に向け、トンネルを夜間も連続して部分開放する換気方法やトンネル換気作業が不要な被覆資材を実証しています。

トンネルを部分開放する技術では、品質も慣行と同程度で、換気労力が4割程度軽減できることに加え、低温被害軽減にもつながるため、現在部会内で12戸に導入されています。

今後も当センターでは、スイートコーンの省力化と生産安定に向け、地域と一体となり取り組んでいきます。



スイートコーンの倒伏軽減対策と省力化に取り組んでいます。

富士・東部地域普及センター



富士北麓地域を訪れる観光客は、富士山の世界遺産登録後に増加しており、この地域の特産品である新鮮で美味しいスイートコーンを購入する消費者が増えています。しかし、夏から秋にかけて台風などの強風による倒伏被害が発生し、収穫量や農家所得の減少が問題となっています。

このような問題を解決するため、農業農村支援課では昨年度、一条栽培や雄穂を取り除くトッピング技術について現地実証を行い、倒伏対策として有効であることを確認しました。また、実証結果を受けて河口野菜出荷組合では、平成30年度「やまなし農業・農村総合支援

事業」を活用し、一条栽培の規模拡大に向け、定植の省力化が可能な全自動野菜移植機を導入しました。

この移植機を活用するためには、プラグトレイから抜きやすい苗の生育が重要であることから、今年度は用土や灌水方法などについて検討しています。

今後、一条栽培の普及により、スイートコーンの省力化と倒伏対策が図られ、富士北麓地域での栽培面積の拡大と安定生産が期待されます。



定植風景